

<目で見て、触って、舐めて確かめよう>

赤ちゃんは、おもちゃを手で握れるようになると、手にしたものを目で見て、触って、そして口で舐めてみて、どんなものかなと確認します。

腹ばいからお座りの姿勢になると、姿勢も安定して、おもちゃなどをしっかりと見ることができるようになります。赤ちゃんの遊ぶ力はまずは、しっかりと見るところから始まります。おもちゃをしっかりと見たり、コロコロ動くものを目で追う力が備わると、能動的に遊べるようになっていくので、追視が充分できるように働きかけ、見守っていきましょう。

また、手で触れたときに、硬い・柔らかい・温かい・冷たい・すべすべなどいろいろな感触も実感させてあげたいですね。手に持ったものは何でも口に持っていき、かじったり、舐めたりするので、口に入れても安心な材質のガラガラやおしゃぶりのおもちゃを用意しましょう。歯が生え始める頃には、歯茎がムズムズしてくるため、歯固めのおもちゃもよいでしょう。

手に持って振ると音が出るおもちゃも喜びます。カラカラと音のするリングや、中に鈴が入っているおもちゃは、大人も子どもと一緒に楽しさを共感できますね。

既製のおもちゃでなくても、手作りで楽しいおもちゃが作れます。例えば、手で握れる程度の小さいペットボトルにビーズを入れたマラカスなどは、とても喜びます。ただし、中のビーズが出てこないように工夫して、危険のないようにしましょう。また、ビー玉やボタンのような小さいもの、たばこなどは口に入れると危険ですので、子どものまわりに出しておかないようにしましょう。

ガラガラやおしゃぶり、またそれ以外のブロックや積木なども、手に持つと舐めることがあるので、舐めた後のおもちゃは洗ったり、拭いたりして清潔を保つようにしましょう。

(文 ここすき！プロジェクト保育士)

